



女性医師支援センター便り

第9回女性医師支援セミナー報告

宮城県女性医師支援センター委員
東北大学病院輸血・細胞治療部副部長
藤原 実名美

平成27年9月12日土曜日、ようやくの秋晴れの中、標記セミナーがTKPガーデンシティ仙台勾当台で開催されました。今回のテーマは「みんなで子育て」で、シンポジストはJA秋田厚生連平鹿総合病院循環器内科科長の深堀耕平先生、東北大学病院副院長の張替秀郎先生、仙台医療センター院長の田所慶一先生、金上病院副院長の安藤由紀子先生の4名でした。櫻井芳明センター長のご挨拶で始まり、私は座長を務めさせていただきました。

深堀先生は、「私の仕事と育児 in かまくらの町 横手」というタイトルで、育児目的の休暇を2か月取得した経験を含めお話しくださいました。秋田県南の急性心筋梗塞、重症心不全、難治性不整脈が集まる病院で医師17年目として精力的に診療され、4人目のお子さんまでは休暇を取ることは考えなかったそうですが、5人目の妊娠がわかった時、産後しばらく自分が仕事を休んで小学5年生、3年生、新1年生と乳児の面倒をみなければ危機的状況だと判断し、絶対休むと決意されたそうです。そこで産まれる半年前から上司に希望を伝えて承諾を得、同僚・パラメディカルを含め周囲の十分な了解を得て、平成26年3月～4月に有給休暇を取得されました。休暇中は家事、乳児2人の世話、小学生3人の世話（宿題、喧嘩、遊び、学校・習い事の送迎）、行事（入学式、保護者面談、PTA、町内会）、毎日の雪よせや屋根の雪下ろしで自分の時間は全くとれず、仕事より大変だったと言われていました。

復帰後は数日で慣れ、「医者の仕事って楽しい。心カテって楽しい！」と実感し、ブランクは全く感じなかったそうです。子育てに関わることで病院外の知り合いが増え、自分の仕事が地域に貢献していることを実感できる、楽しみが増える、モチベーションが高まる、仕事がつらいときものりきれ、と話されました。子のサッカーチームにも関わられ、今年はそこで心肺蘇生講習会も開催なさいました。帰宅は20時21時ですが仕事の合間に子どもの送迎など、子どもと過ごす時間は結構あるそうです。男性でも育児休暇をとることは難しくない、ハードルがあるとすれば外環境ではなく心理的なもの、子育ては大変だが楽しく、親の世界を広げるきっかけになる、そして田舎での生活もわるくないです（横手は出産・子育てしやすい街ランキングで1位）、と結んでいました。

NO PHOTO

深堀耕平先生

張替先生からは、「東北大学病院における女性医師支援について」というタイトルで、育児短時間勤務医員制度（以下時短）、院内保育園、病後児保育施設と、昨年活動を開始した女性医師支援推進室のご紹介がありました。室からの要望で、マタニティ白衣無料貸し出し、時短の要件

拡大（小学校3年までの児の養育，介護，障がい児養育，自身の健康理由）が実現しています。課題としては，院内保育室の定員が25名（最もニーズのある0歳児は5名）と非常に少なく，環境も北向きで園庭がないなど問題があり，早急な解決は難しいが，定員増や敷地内の保育園移転等，前向きに検討しているとのことでした。

田所先生は，「女性医師が安心して働ける職場づくりの取り組み」というタイトルでお話してくださいました。仙台医療センターは一昨年から初期研修医の減少（定員19名のところ14名）があり，対策を講じて今年度18名に回復したそうです。対策内容は，選択自由度の高いク

リエイティブコース設置のほか，病院見学の際，女子学生には病院長か副病院長とのランチ，男子学生（と希望する女子学生）には飲み会を行い，女子学生には同院の女性医師の活躍ぶりをアピールしたところ，今年の研修医は男性8名，女性10名で，初めて女性が半分を超えたそうです。

環境改善については，女性医師の就労に関する懇談会により要望を吸い上げ，女性専用仮眠室，男女別シャワールーム，女性医師専用休憩室の設置，女性更衣室の拡大がなされ，新病院では女性専用当直室の設置を検討しているとのことでした。院内保育園は延長保育（20時まで），土曜保育（18時15分まで），夜間保育（週2回）があり，特筆すべきは院内保育利用希望を全て受け入れているということです。増築に加え空き病室を改修して増設され，園児数は平成22年度50名前後→今年度91名とのことでした。それだけ育児中の女性医師が活躍しており，働く意欲の高い女性医師を惹き付ける病院になっていることが伺われました。病後児保育室“MoiMoiMoi”は平成24年から設置され，新病院建設に際し，さらに働きやすい病院を目指していきたいとのことでした。

安藤先生は，「皆に見守られて心も身体も健やかに～いつでもママと笑顔で会える～」のタイトルで，金上病院の院内保育室を紹介してくださいました。優秀なスタッフが子どもを持って働き続けられるようにと設置され，毎年1,000万円以上の病院負担があるものの，それ以上のものが得られており継続しているそうです。保育室の芝生でのびのび遊び，併設のホームに入所されているおじいちゃんおばあちゃん達の愛を感じ，家庭的な環境で大切に見守られ育ったお子さんが，現在は職員となって勤務されている例も紹介されました。また同院には職員一人一人にきめ細やかに目を配る担当がおられ，素晴らしいコミュニティだと感じました。

今回のセミナーは，参加者が例年より少なかったのが残念でしたが，貴重なお話をきくことができました。

より多くの医師，医学生にこのような内容を知っていただきたいと感じ，私達もさらに努力していきたいと思

NO PHOTO

張替秀郎先生

NO PHOTO

田所慶一先生



安藤由紀子先生